

令和 6 年 8 月 7 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H03682

研究課題名（和文）危機下における少数派・弱者の生存戦略：イスラーム圏の通史的・地域横断的研究

研究課題名（英文）Survival Strategies of Minorities and Vulnerable Groups in Times of Crisis: A Comprehensive Analysis of the Islamicate World

研究代表者

高橋 英海 (Takahashi, Hidemi)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：20349228

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、時代と地域を横断する形でイスラーム圏の社会的少数派・弱者の生存戦略について総合的に分析を行った。初年度（2021年度）に、『上智アジア学』（英語雑誌）に特集Survival Strategies of Minorities and Vulnerable Groups in the Islamicate World（イスラミケート世界における少数派と脆弱集団の生存戦略）を掲載し、第二年度（2022年度）前半において当該雑誌掲載論文の成果に基づく連続公開研究会を実施した。第二年度後半から第三年度（2023年）にかけては、集中的に研究会を実施し、時代・地域横断的な分析をさらに発展させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、イスラーム圏（Islamicate）を軸に、時代・地域横断的な分析を行ったことを最大の成果としている。特に中世史から現代の難民に至るまで、イスラーム圏で発生してきた社会的少数派・弱者が、いかにして苛酷な環境を生き抜いてきたのかを明らかにしたことは、特筆すべき成果であった。さらに、第二年度に実施した連続公開講演会では、中東地域に関わりを持つ実務家の参加も得ることで、研究成果の社会的発信も行うことができた。特に2023年10月以降に中東情勢が緊張するなか、本研究課題で蓄積された時代・地域横断的な視座が果たす役割は大きいと期待される。

研究成果の概要（英文）：This project conducted a comprehensive analysis of the survival strategies of social minorities and vulnerable groups in the Islamicate world across time and regions. In the first year (FY2021), we published a special issue of the Sophia Journal of Asian Studies (Survival Strategies of Minorities and Vulnerable Groups in the Islamicate World). In the first half of the second fiscal year (FY2022), we held a series of open seminars based on the results of the articles published in the journal. This workshop was attended by various researchers from Japan and abroad and resulted in the further development of the Grant-in-Aid for Scientific Research project. From the second half of the second fiscal year to the third fiscal year (2023), we conducted a series of intensive workshops further to develop the analysis across periods and regions.

研究分野：地域研究

キーワード：イスラーム圏 マイノリティ 生存戦略 紛争 ジェンダー

## 様式 C-19、F-19-1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) イスラーム圏において、言語的・民族的・宗教的多様性はどのように担保されていたのかを明らかにしようと試みた。特に社会的に不利な立場におかれてきた諸集団の歴史と現状についての的確な分析を基軸に、本研究ではイスラーム圏に独自のシステムが働いているのか否かに注目した。

(2) 多様性が担保されているイスラーム圏において、社会的少数者・弱者の生存戦略は、どのように展開されてきたのかを明らかにしようと考えた。特に迫害や飢餓、疫病、戦争などの危機の時代において、民族的、宗教的、性的、またはその他社会的に脆弱な立場に置かれてきた行為主体が、どのような選択によって生き残りを図ってきたのかという点を分析の基軸に据え、アイデンティティの多様性や重層性を具体的事例から論じることを目指した。

### 2. 研究の目的

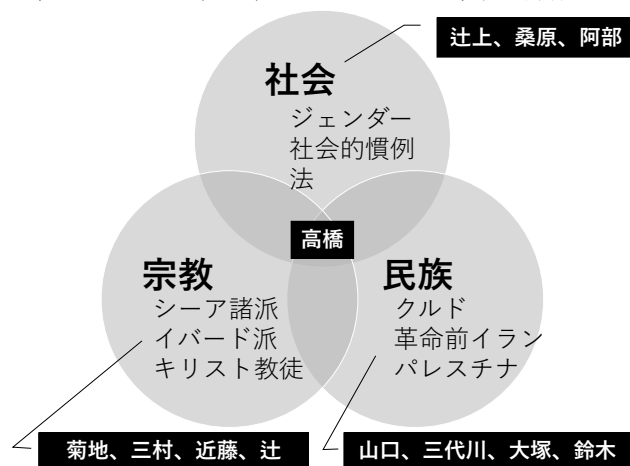
(1) 中東を中心とするイスラーム圏を対象として、民族的、宗教的、言語的に多様性に富む地域において、少数派の立場に置かれた人々がどのように危機に対処してきたのかを、地域横断的に明らかにする。天災や戦争、疫病、飢餓などの危機に直面したとき、弱者の立場に置かれた社会的少数派に属する人々は、どのようにその危機に対峙し、生き残りを図ってきたのか、具体例に基づいて分析を行う。

(2) 生存戦略として特に着目するのは、アイデンティティの表出、または隠蔽である。Sylvan と Metskas の議論に代表されるように、社会科学でよく使用されるアイデンティティの測定方法には画一的なものは存在していない。本研究プロジェクトではこれを逆に強みとして、それぞれの分野で少数派集団や社会的弱者に注目してきた研究者が協働することで、具体的事象から相互に比較可能な分析を行う。

### 3. 研究の方法

(1) 少数派集団や社会的弱者に注目してきた研究者が協働することで、具体的事象から相互に比較可能な分析を行った。この際に特に留意したのは、社会的弱者のアイデンティティとその表出（または隠蔽）である。地域研究においては、行為主体の主体性に注目し、これ分析することでさまざまな成果がもたらされてきた。また、アイデンティティ研究においては、社会制度や法的地位に関する研究蓄積も豊富である。本研究の独自性は、社会的少数者が危機の時代において、どのように生存戦略を実行してきたのかという点に着目したことにある。

(2) 具体的な分析においては、参加する研究者を右図の通り3つの作業グループにわけて研究を実施し、それぞれのグループの成果を比較、分析した。イスラーム圏で注目されてきた宗教と民族という要素に加えて、法や規範、社会的慣例といった社会的な要素を加えることで、イスラーム圏を横断する形で分析を行った。



### 4. 研究成果

(1) 『上智アジア学』(英語雑誌) に特集 Thematic Articles : Survival Strategies of Minorities and Vulnerable Groups in the Islamicate World (イスラミケート世界における少数派と脆弱集団の生存戦略) を掲載した。本論集は、中世から現代まで時代を横断し、かつ取り上げる事例もシリア教徒のほか、コプト・キリスト教徒、サービア教徒など宗教的少数者のほか、イスラームのなかでも少数派に該当するイバード派、さらに現代の社会的弱者として無国籍者(パレスチナ人、シリア難民)やイスラエルの女性兵士と多岐にわたり、本研究課題が対象とする地域・事象の広がりを再確認することになった。多様な主体による生存戦略に着目した議論は Burke によるものが有名であるが、アラビア語圏に偏重する状態にあった。本研究課題では非アラビア語圏を含めて比較検討を行う成果があった。

(2) 連続公開研究会(全4回)を実施し、国内外の研究者および実務者の参加を得て議論を深めた。第1回「宗教的マイノリティの生存戦略」では、イスラーム圏における非ムスリムの生存戦略を扱い、高橋、三村、三代川が報告した。庇護民としての立場の利用など、具体的事例から

比較検討ができた。また第2回「紛争下のマイノリティ」では、紛争下で社会全体が動揺するなかで、難民女性がヨーロッパ圏で同胞と取り結ぶ戦略的関係のあり方や、社会を再建する際の立法過程でマイノリティの権利にどこまで配慮がなされるのかが明らかにされた。第3回「地域紛争と生存戦略」では、鏡映しに近いイスラエルとパレスチナ社会それぞれにおいて少数派として位置づけられる人びとに関して、紛争状態のなかで国家や民族への忠誠心や貢献の度が鋭く問われる事態が生じることが分析された。第4回研究会「改宗／布教と生存戦略」では、コプト・キリスト教徒とイスラームのイバード派が内的規範を鍛え、少数者でありながら社会のなかに立場を確立していく過程が扱われた。この研究会には、近接する学問領域を専門とする研究者や中東地域の社会的課題に取り組む実務家による参加があり、研究成果の社会的発信としても意義のある取り組みが叶った。

(3) 集中研究会（第1回）を盛岡大学で実施し、本研究プロジェクトで示されたアイデンティティの選択や隠蔽という現象を、南スーダンとオスマン帝国治世下のサロニキでの事例から比較検討した。いずれの事例も、一つの国家（帝国）が解体される過程で観察された生存戦略を分析することで、近現代史で起こり得るもっとも深刻な危機に少数派がどのように対処してきたのかを比較検討するものであった。この結果、分析概念に昇華する点では課題が残るものの、現象としては時代・地域を横断する形でアイデンティティの表出と隠蔽を軸に分析が可能であることが示された。

(4) 集中研究会（第2回）を福岡女子大学で実施し、第1回集中研究会で浮かび上がった課題を改めて本プロジェクトのメンバーで検討し、発展的課題を設定することができた。特に、中東から韓国済州島にイエメン難民の移動が観察されたことを事例に、イスラーム圏からアジア地域に広がる移動のネットワークを、多層性を持つマイノリティ（難民であり、かつ非イスラーム圏におけるイスラーム教徒）という観点から分析する視座を得た。また、第2回集中研究会では歴史的視座との往還に重点を置き、中世から近代のイスラーム圏における少数派の生存戦略についてメンバーから報告が行われ、ウォーラーステイン的な「中心・周縁」のモデルでは描ききれないイスラーム圏の重層的な地域秩序に関して、より比較の視座を豊かにしたうえで研究を行う意義が示された。

(5) 日本中東学会第40回年次大会において、開催校企画「マイノリティが照らし出す中東世界」を企画、実施し、評価を得た。本研究プロジェクトで得られた視座に加えて、さらに将来的な新たな研究プロジェクトに向けたパイロット的な報告となった。

(6) 複合的アイデンティティの選択的な提示、または一部の隠蔽について、時代・地域横断的に比較検討が実施できた。中東地域での「アイデンティティ複合」については、板垣雄三による先駆的研究が存在する。一方で、社会的少数者・弱者の生存戦略という本研究プロジェクトの視座は、イスラーム圏の民族的、宗教的、言語的な多様性をより具体性をもって明らかにする取り組みとして成果をあげた。

(7) 複合的な「中心・周縁」の軸が提起され、イスラーム圏が持つ特徴を通時的、地域横断的に指摘することができた。聖地が点在すること、歴史上有力な王朝や都市が変遷することで、単一の「中心・周縁」関係ではなく、複合的な軸を持つ地域秩序がイスラーム圏には存在し、これが社会的少数者・弱者による生存戦略が機能する条件となってきた点を、本研究プロジェクトでは明らかにすることができた。

(8) 書籍刊行プロジェクトが進展した。『上智アジア学』での特集からより発展させる形で、叢書の刊行に向けて具体的なスケジュールを伴う計画を策定、準備を進めることになった。

#### <引用文献>

板垣雄三.1992.『歴史の現在と地域学：現代中東への視角』岩波書店。

Burke, Edmund. 1993. *Struggle and Survival in the Modern Middle East*. Berkeley: I. B.Tauris.

Sylvan, Donald A. and Amanda K. Metskas. 2009. "Trade-offs in Measuring Identities: A Comparison of Five Approaches", in *Measuring Identity: A Guide for Social Scientists*, eds. Rawi Abdelal, Yoshiko M. Herrera, Alastair Iain Johnston and Rose McDermott, 72-109, Cambridge: Cambridge University Press.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 大塚修	4. 巻 83
2. 論文標題 ティムール朝における学芸保護と学知：イスカンダル・スルターンの傑作集を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 37-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00022698	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 菊地達也	4. 巻 61
2. 論文標題 イスラム思想における極端派的伝統：ヌサイル派（アラウィー派）源流思想における輪廻思想を事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 325-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Taro Mimura	4. 巻 8
2. 論文標題 The Attribution of an Arabic Commentary on Nasir al-Din al-Tusi 's Tahrir al-Majisti to Shams al-Din al-Samarqandi	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nazariyat: Journal for the History of Islamic Philosophy and Sciences	6. 最初と最後の頁 145-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.12658/Nazariyat.8.2. M0174en	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Akihiko Yamaguchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Mediating between the Royal Court and the Periphery: The Zangana Family 's Brokerage in Safavid Iran (1501-1722)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Iran	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/05786967.2023.2170814	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Namie Tsujigami & Hidemi Takahashi	4. 巻 39
2. 論文標題 Editor's Note	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hidemi Takahashi	4. 巻 39
2. 論文標題 The Role of the Cult and Memory of the Martyrs in the Survival Strategy of Syriac Christians	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Namie Tsujigami	4. 巻 39
2. 論文標題 Evolving Gendered Relations during Refugees' Settlement Process in Norway	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 137-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroko Miyokawa	4. 巻 39
2. 論文標題 The Coptic Orthodox Mission in Kenya: An African Search for Identity and the Coptic Encounter with Africa	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 69-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taro Mimura	4. 巻 39
2. 論文標題 Greek Scientific and Philosophical Knowledge as a Survival Tool for a Religious Minority at the Abbasid Court: The Case of Thabit ibn Qurra	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asuka Tsuji	4. 巻 39
2. 論文標題 The Demise of the Coptic Church in Ninth-century Egypt as Survival Strategy Flounder	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 15-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yohei Kondo	4. 巻 39
2. 論文標題 Establishing Common Grounds: Ibadi Theories of Abrogation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 49-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Suzuki	4. 巻 39
2. 論文標題 Discovering Comrades: How the Palestinian National Movement Evaluated "Land Day" in 1976	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 87-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 69
2. 論文標題 イスラームとジェンダーを考える5冊 「第三世界フェミニスト」の挑戦	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 144-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 953
2. 論文標題 タリバン復権後のアフガニスタンの女性に対するわれわれの眼差し	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 學士會會報	6. 最初と最後の頁 23-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀谷学・大塚修・松本隆志	4. 巻 12
2. 論文標題 イブン・ワーディフ・ヤアクービー著『歴史』訳注(3)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文社会科学論叢	6. 最初と最後の頁 69-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 阿部尚史	4. 巻 65
2. 論文標題 ナジャフコリー・ハーン家のトクール	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 お茶の水史学	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hatsuki Aishima, Hayrettin Yucesoy, R. Michael Feener, Osamu Otsuka, Satoshi Ogura, Kenji Kuroda, Hatsuki Aishima, Hilary Kalmbach, Armando Salvatore	4. 巻 121
2. 論文標題 The Wiley Blackwell History of Islam	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The American Historical Review	6. 最初と最後の頁 199-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ahr/rhab063	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部尚史	4. 巻 1
2. 論文標題 継承されるサフィー廟不動産目録	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究別冊	6. 最初と最後の頁 91-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yohei Kondo	4. 巻 Numero special 3
2. 論文標題 Transmission of Knowledge among the Ibadis in Oman: Ibn Baraka 's Notebook (taqyid) and Its Circulation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nouvelles chroniques du manuscrit au Yemen	6. 最初と最後の頁 38-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計40件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 On Some Recent Discoveries - Other than from Turfan - Relating to Syriac Christianity in Central Asia and China
3. 学会等名 13um Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 Syriac-Armenian Relations as Seen from Syro-Armenian (Armenian Garshuni) Manuscripts
3. 学会等名 13um Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 Further Notes on the Medical and Pharmaceutical Works of Barhebraeus
3. 学会等名 13um Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Osamu Otsuka
2. 発表標題 Barrasi-yi Nusakh-i Khatti-yi Farsi
3. 学会等名 Hamayish-i Iran-shinasan-i Iran wa Zhapun (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大塚修
2. 発表標題 ティムール朝における学芸保護と学知: イスカンダル・スルターンの『傑作集』を中心に
3. 学会等名 2022年度立教大学史学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大塚修
2. 発表標題 アラビア文字写本研究の新潮流と東洋学アジア研究
3. 学会等名 東洋学・アジア研究連絡協議会シンポジウム「近未来の東洋学・アジア研究:東洋学・アジア研究の新潮流」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 桑原尚子
2. 発表標題 国際開発・国際協力からみた宮沢賢治 「農民芸術概論綱要」から読み解く
3. 学会等名 岩手大学人分社会科学部宮澤賢治いわて学センター・第15回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Osamu Otsuka
2. 発表標題 Tarikh-i Banakati Reconsidered: Beyond Rashid al-Din-centrism
3. 学会等名 International Workshop “Banakati and Khvandamir: Value and Readership of Persian General Histories (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤洋平
2. 発表標題 Establishing Common Grounds: Ibadi Theories of Abrogation
3. 学会等名 東京大学中東地域研究センター主催研究会 第4回「改宗／布教と生存戦略」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 近藤洋平
2. 発表標題 オマーンの信仰と宗教実践
3. 学会等名 「深掘り！ オマーン・スルタン国」駒場中東セミナー第6回（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 近藤洋平
2. 発表標題 現代オマーンにおける文化遺産政策の展開
3. 学会等名 オマーン南部海港都市の脆弱な社会環境下にあるリビングヘリテージの復興と継承（サララ科研）建築班研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yohei Kondo
2. 発表標題 Introspection of Religious Identity across the Indian Ocean: Reading 'Ali b. Muhammad b. 'All al-Mundhiri's Works
3. 学会等名 The 1st International Symposium of the Indian Ocean World Studies "Discovering the Indian Ocean World: "Gyres", Indian Ocean and beyond"（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木啓之
2. 発表標題 パレスチナにおける独立運動の蹉跌と国家建設
3. 学会等名 日本比較政治学会・第25回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木啓之
2. 発表標題 20世紀の中東とパレスチナ問題：紛争の複合的な研究に向けて
3. 学会等名 北海道大学政治研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木啓之
2. 発表標題 30年を迎えるオスロ体制と諸研究の課題
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「パレスチナ/イスラエル紛争の変容：最終的地位と新たな課題」第1回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木啓之
2. 発表標題 1970年代における連帯運動と訪日パレスチナ人：現代史におけるパレスチナ問題の射程
3. 学会等名 日本中東学会第28回公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木啓之
2. 発表標題 紛争下での信頼と猜疑：パレスチナ人と『他者』が織り成す関係性
3. 学会等名 2022年度イスラーム信頼学全体集会 「対立と紛争のなかで、つなぐ」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Asuka Tsuji
2. 発表標題 The Life and Miracles of Yuhanna al-Rabban
3. 学会等名 12th International Congress of Coptic Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Asuka Tsuji
2. 発表標題 Byzantine and Syriac Influences in the Copto-Arabic Hagiography of Yuhanna al-Rabban
3. 学会等名 11th Conference of Christian Arabic Studies
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辻明日香
2. 発表標題 9世紀エジプトにおける改宗第1波再考
3. 学会等名 改宗 / 布教と生存戦略 第4回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nami Tsujigami
2. 発表標題 Do Consumption and Entrepreneurship Change Gender Order in Saudi Arabia?
3. 学会等名 日本中東学会第38回年次大会企画セッション
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 Evolving Gendered Relations during Refugees' Settlement Process in Norway
3. 学会等名 東京大学中東地域研究センター主催紛争下のマイノリティ第二回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 女性の社会進出と活躍
3. 学会等名 サウジアラビア大使館文化部サウジナショナルデー講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Namie Tsujigami
2. 発表標題 Kalimat-ash-sharaf
3. 学会等名 Al-lisaniya al-hasubiya wa-l-kugha-al-arabiya (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Namie Tsujigami
2. 発表標題 Consumption-driven Entrepreneurship among Women in Saudi Arabia
3. 学会等名 Middle East Studies Association Annual Meeting 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 アラビア語でフィールドワークする
3. 学会等名 世界アラビア語の日祭り
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 湾岸アラブ諸国の女性の起業と消費
3. 学会等名 日本サウジアラビア協会・日本クウェート協会講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 三代川寛子
2. 発表標題 The Coptic Orthodox Mission in Kenya: An African Search for Identity and the Coptic Encounter with Africa
3. 学会等名 研究会「宗教的マイノリティの生存戦略」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroko Miyokawa
2. 発表標題 The Revival of St. Menas Veneration in Egypt
3. 学会等名 Twelfth International Congress of Coptic Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三代川寛子
2. 発表標題 20世紀エジプトにおける聖メナス崇敬の復興運動
3. 学会等名 東方キリスト教学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akihiko Yamaguchi
2. 発表標題 From mountains to plains: Urban transformation in early modern Kurdistan
3. 学会等名 Historic cities of Afro-Eurasia, comparing Tunisian and Mashriq cities: Establishment, characteristics and urban society/inhabitants (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidemi Takahashi
2. 発表標題 The Role of Syriac in the Eastward Transmission of Greek/Byzantine Culture and Knowledge
3. 学会等名 Byzanz Global: Geschichte und Kultur des Byzantinischen Reiches im welthistorischer Perspektive (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菊地達也
2. 発表標題 イスラム思想の中のギリシア哲学
3. 学会等名 連続シンポジウム「世界哲学・世界哲学史を再考する」第3回「哲学の領域横断的対話を求めて」(東京大学東アジア藝文書院主催)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 菊地達也
2. 発表標題 イスラム思想における極端派的伝統：ヌサイル派（アラウィー派）の源流思想に関する研究序説
3. 学会等名 東洋哲学研究所イスラーム・レクチャー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 サウジアラビアの社会変革とジェンダー秩序 国家と宗教、SNS公共圏
3. 学会等名 「宗教と風紀」連続講演会セッション1：風紀と性秩序
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroko Miyokawa
2. 発表標題 The Coptic Orthodox Church as an “African” Church
3. 学会等名 Middle East Studies Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辻明日香
2. 発表標題 前近代エジプトにおけるコプト聖人：古代エジプトとイスラームのはざままで
3. 学会等名 駒場中東セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yohei Kondo
2. 発表標題 The Conception of istiqaama (righteousness) in the Eastern Ibadi Thought
3. 学会等名 11th Conference on Ibadi Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木啓之
2. 発表標題 対テロ戦争のもたらした問題群：パレスチナ/イスラエル紛争の変容を手がかりに
3. 学会等名 日本平和学会2021年度春季研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木啓之
2. 発表標題 書き留められた記憶：パレスチナ人回顧録に描かれたユダヤ人との邂逅
3. 学会等名 日本ユダヤ学会・2022年関西例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 近藤洋平	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 22
3. 書名 「イバード派の内と外 救済資格に関する議論について」森本一夫ほか（編）『イスラームの内と外から 鎌田繁先生古稀記念論文集』	

1. 著者名 Hidemi Takahashi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 LIT Verlag	5. 総ページ数 27
3. 書名 "Fragments from Turfan at Ryukoku University, Kyoto". Li Tang & Dietmar Winkler (eds.). Silk Road Traces: Studies on Syriac Christianity in China and Central Asia	

1. 著者名 大塚修・赤坂恒明・高木小苗・水上遼・渡部良子訳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 516
3. 書名 カーシャーニー オルジェイトゥ史：イランのモンゴル政権イル・ハン国の宮廷年代記	

1. 著者名 Osamu Otsuka	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Danishgah-i Bayn al-Milali-yi Imam Khumayni	5. 総ページ数 24
3. 書名 Pazhuhishi darbara-yi Dhayl-ha-yi Tarikh-i Guzida: Dhayl-i Taza Kashf Shuda darbara-yi Tarikh-i Jalayiriyān, Majmu'a-yi Maqalat-i Hamayish-i Milli-yi Mirath-i 'Imi wa Farhangi-yi Hamd Allah Mustawfi Qazwini	

1. 著者名 菊地達也	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 21
3. 書名 「ヌサイル派源流思想研究のための予備的考察：ハスィービー著『ラストパーシュ書簡』の分析を通じて」森本一夫・井上貴恵・小野純一・澤井真(編)『イスラームの内と外から 鎌田繁先生古稀記念論文集』	

1. 著者名 鈴木啓之	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 2
3. 書名 「地域ごとの食文化（パレスチナ）」、イスラーム文化事典編集委員会編『イスラーム文化事典』	

1. 著者名 鈴木啓之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 8
3. 書名 「パレスチナ問題」、歴史学研究会編『「歴史総合」をつむぐ：新しい歴史実践へのいざない』	

1. 著者名 辻明日香	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 -
3. 書名 「イスラーム支配下のコプト教会」『ヨーロッパと西アジアの変容 11~15世紀（岩波講座 世界歴史9）』	

1. 著者名 三代川寛子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 26
3. 書名 「マイノリティ問題 リベラリズムとネオ・ミット制のはざままで」中村寛（監修）、横田貴之（編著） 『シリーズ・中東政治研究の最前線4 エジプト』	

1. 著者名 山口昭彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 2
3. 書名 「アブデュッレツザーク・ベディルハーン：親露派クルド・ナショナリストの足跡」『岩波講座 世界歴史 第20巻 二つの大戦と帝国主義 20世紀前半』	

1. 著者名 Hidemi Takahashi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Paris: Geuthner	5. 総ページ数 22
3. 書名 Syriac Manuscripts in the Nakanishi Collection, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan. Simon Brelaud, Jimmy Daccache, Muriel Debie, Margherita Farina & Emilie Villey (dir.). Le calame et le ciseau : colophons syriaques offerts a Francoise Briquel Chatonnet	

1. 著者名 菊地達也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 147
3. 書名 ドゥルーズ派の誕生	

1. 著者名 Tatsuya Kikuchi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 (Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 14
3. 書名 Changes in Druze Self-Expression in the Latter Decades of the Twentieth Century. Yohei Kondo (ed.), Survival Strategies of Minorities in the Middle East: Studies on Religious and Politico-Social Minority Groups in Middle Eastern Societies	

1. 著者名 Akihiko Yamaguchi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 16
3. 書名 The Kurdish Frontier under the Safavids. Rudi Matthee (ed.), The Safavid World	

1. 著者名 山口昭彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 18
3. 書名 「山城から平城へ 近世クルディスタンにおける都市機能の変容」『都市からひもとく西アジア 歴史・社会・文化』	

1. 著者名 Namie Tsujigami	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学中東地域研究センター スルタン・カブース・グローバル中東研究寄付講座	5. 総ページ数 18
3. 書名 Institutionalisation of Female Entrepreneurship and Consumption in Sex-Segregated Riyadh. Kondo, Yohei (ed.), The Arabian Peninsula: History, Culture, and Society	

1. 著者名 Hiroko Miyokawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Leiden: Brill	5. 総ページ数 9
3. 書名 Ya'qub Nakhla Rufayla, Tarikh al-Umma al-Qibtiya. David Thomas and John A. Chesworth (eds.) Christian-Muslim Relations: A Bibliographical History. Volume 18. The Ottoman Empire (1800-1914)	

1. 著者名 桑原尚子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 118
3. 書名 「マレーシア連邦 解説・訳」鮎京正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』	

1. 著者名 桑原尚子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 106
3. 書名 「シンガポール共和国 解説・訳」鮎京正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』	

1. 著者名 Yohei Kondo	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures, Tokyo University of Foreign Studie	5. 総ページ数 19
3. 書名 Survival Strategies of Religious Minority Groups in Oman. Y. Kondo (ed.), Survival Strategies of Minorities in the Middle East	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大塚 修  (Otsuka Osamu)  (00733007)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授   (12601)	
研究分担者	桑原 尚子  (Kuwahara Naoko)  (10611361)	岩手県立大学・総合政策学部・准教授   (21201)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阿部 尚史  (Abe Naofumi)  (20589626)	お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授    (12611)	
研究分担者	近藤 洋平  (Kondo Yohei)  (20634140)	福岡女子大学・国際文理学部・准教授    (27103)	
研究分担者	辻上 奈美江  (Tsuji gami Namie)  (30584031)	上智大学・総合グローバル学部・教授    (32621)	
研究分担者	菊地 達也  (Kikuchi Tatsuya)  (40383385)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授    (12601)	
研究分担者	山口 昭彦  (Yamaguchi Akihiko)  (50302831)	上智大学・総合グローバル学部・教授    (32621)	
研究分担者	三村 太郎  (Mimura Taro)  (50782132)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授    (12601)	
研究分担者	鈴木 啓之  (Suzuki Hiroyuki)  (50792488)	東京大学・大学院総合文化研究科・特任准教授    (12601)	
研究分担者	辻 明日香  (Tsuji Asuka)  (60549509)	川村学園女子大学・文学部・准教授    (32514)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	三代川 寛子  (Miyokawa Hiroko)  (90614032)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授     (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関